

■ 3学期、順調ですか？

1月7日(木)に始業式があり、2日間だけ授業があった後、本校の入試のため1週間ほど休みとなり、1月18日(月)から授業が再開しました。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中ですが、みなさん、落ち着いた学校生活を送っていますか？



1月16日(土)～17日(日)に大学入学共通テストがあり、3年生が受験してきました。本校生の中では特進コースの諸君が全体的に健闘したようです。今ひとつ振るわなかったり、力を出し切れなかったりした諸君は、気持ちを切り替えてほしいものです。大学入学共通テストについては、今後、学校として評価、対策が施されるものと思われませんが、大学入試センター試験よりも英語や国語で文章量が多かったり、地歴・公民では資料をいかに読み込めるかが問われるような出題が多くなったりするなど、全体的に難化傾向にあると言えます。ただし、各教科・科目の平均点は、昨年の大学入試センター試験よりも良い(上がっている)傾向にあるという話も耳にしますが・・・。

さて、推薦等で合格している生徒以外の3年生は、これから私立大学入試、国公立大学2次試験と志望校に向けての挑戦が続きます。2年生、1年生のみなさんもそれぞれ1年後、2年後の大学の一般入試の本番を迎えることとなりますので、少しずつ意識して学習に取り組み、悔いが残らないように努力していきましょう。

■ 3年生の進路決定状況

1月21日(木)現在の3年生の進路決定状況です。大学の一般受験をはじめ、まだ決定していないみなさん、最後の最後までがんばりましょう！！

【1月21日現在】

| | 大学 | 短大 | 専門学校 | 就職 | その他 | 合格・内定 |
|------|-----|----|------|-----|-----|-------|
| 決定者数 | 77名 | 7名 | 33名 | 26名 | 4名 | 147名 |
| 希望者数 | 92名 | 7名 | 35名 | 28名 | 4名 | 166名 |

【合格大学】 ※数字は延べ人数。数字のないものは1名のみ合格。

福島県立医科大学 東日本国際大学(14名 経済経営学部5名・健康福祉学部9名) 青森中央学院大学 茨城キリスト教大学 医療創生大学(7名) 浦和大学 神奈川工科大学 金沢学院大学 関東学院大学 郡山女子大学 埼玉工業大学 作新学院大学(2名) 札幌大学 淑徳大学(3名) 松蔭大学 尚絅学院大学 城西国際大学 上武大学 情報経営イノベーション専門職大学 昭和音楽大学 駿河台大学(3名) 仙台大学(2名) 大正大学 千葉工業大学(2名) 千葉商科大学(3名) 中央学院大学 つくば国際大学 帝京大学 桐蔭横浜大学 東京工芸大学 東京成徳大学 東京農業大学 東京福祉大学 東北学院大学(2名) 東北工業大学(2名) 東北文化学園大学 常磐大学 新潟食料農業大学(2名) 日本大学(4名) 日本ウェルネススポーツ大学 日本文理大学 文教大学 武蔵大学 了徳寺大学 気象大学校(※気象大学校は諸官庁設置校だが、ここでは大学合格者数に含む)

■合格体験記

これまでに多くの3年生が大学等の合格や企業からの内定を得ています。今後、少しずつ合格体験記を掲載できればと考えています。今回は、総合型入試で日本大学理工学部合格した松本和燈君（3年4組）と武蔵大学経済学部合格した鈴木夕里菜さん（3年5組）に合格体験記を書いてもらいました。ぜひ、参考にしてください。

【合格体験記】 松本和燈君（3年4組）
日本大学理工学部まちづくり工学科合格



私は、志望大学への入学チャンスが増えると思い総合型選抜にチャレンジしました。

日大のまちづくり工学科は、事前課題のレポート提出や試験当日にそのレポートに関するプレゼンをするなど、志望動機などの書類作成なども含め準備にとっても時間を費やしました。専門性が高いので、なりたい職業や資格について調べたり、時事問題を新聞から切り抜いてファイル化したりすることも受験準備としてやってきました。人前で話すのが得意ではない自分が、プレゼンなんてできるのだろうか、正直無理かもしれないと思ったこともありました。

しかし、なりたい自分になるための挑戦だと思い頑張る事ができました。書類作成や面接練習、プレゼン練習では、先生方から沢山のアドバイスを頂き、当日緊張はしましたが、落ち着いた気持ちでのぞむことができました。先生方や友人、家族に応援してもらい合格できた事は自信に繋がりました。

日大のオープンキャンパスに1年の時から参加し、教授や学生の話聞き、なりたい自分像を描くことができたことも頑張れた要因の1つだと思っています。

【合格体験記】 鈴木夕里菜さん（3年5組）
武蔵大学経済学部経営学科、情報経営イノベーション専門大学合格



私は総合型選抜を受験し、進学する武蔵大学を含め2つの大学から合格をいただきました。2年生までは、一般入試の受験対策をしていて、何となくこの大学のこの学部に行きたいなあと大学進学に対して曖昧な気持ちでした。コロナウイルスの影響による休校で家にいる時間が多くなり、受験への不安を感じ、自分がどんな人間なのか、将来は何をしたいのか、そのためにどの大学で何を学びたいのかを明確にするために時間を取って考えました。

（裏面に続く）

大学や受験方式を考えていく中で、総合型での受験を決めゴールデンウィーク頃から準備を始めました。志望理由書を書くときは、先生に何回も添削をしてもらったり、本を読んだり、専門的な人に話を聞きに行きました。現時点での考えを明確に言葉にして表すことは難しく、つらい時期もありましたが、自分自身と将来のやりたいことを大学の教授に評価してもらえる入試を経験することができ、楽しいと思える受験期間でした。そして、受験を通して自分に自信を持てるようになりました。

大学受験だけではなく就職活動も含め、これから受験を経験する1、2年生の皆さんには数年後にどんな姿でありたいのか、何をしたいのか、自分はどんな人なのかなど、ぼんやりでもいいので考える時間を作ってみたいと思います。私も大学4年間で将来のために学びを深め、沢山の経験を積んで、一步ずつ前進していきたいと思います。最後になりますが、志望理由書添削・面接練習などのサポートをしていただいた先生方、ありがとうございました。

■ 1、2年生諸君も進路について考えよう！

表面でお知らせしたように、3年生の進路結果がほぼ出て、残すところは大学の一般入試に絞られてきました。今年度の3年生はほぼ順調に進路活動が進みましたが、大学の公募制推薦入試でかなり苦労した生徒がいたり、就職でなかなか内定を得られなかった生徒がいたりしました。各教科の先生方にご協力いただきながら、生徒諸君なりに努力していたように見受けられましたが、より高いレベルで入念に準備する必要性を感じました。特に次年度、進路活動をしていくことになる2年生諸君は、「進路」に対する意識を高め、少しずつ準備をしていかなければなりません。今年度は新型コロナウイルス感染症のこともあり、ガイダンスを実施することができず、よく分からないまま進路活動を進めた人も多かったようです。次年度もそのような形になることも考えられますので、柔軟に対応していけるようにしておきましょう。



1年生も2年後の今頃は大部分の諸君が進路について結果が出ているものと思われま。希望進路実現のため充実した生活を送るように心がけましょう。

■ 日本学生支援機構・奨学金の審査結果

冬休み中に届いた日本学生支援機構・予約採用の審査結果の通知につきまして、1月7日（木）もしくは8日（金）にお子様を通してお渡ししました。寮生につきましては、1月15日（金）までに簡易書留で郵送しました。繰り返しお伝えしていますが、進学決定先の入学手続きの際に、結果通知の内容に沿って進めていただかないと、手続き完了にはなりませんのでご注意ください。今後、不明な点がありましたら、日本学生支援機構に直接お問い合わせいただきますようお願いいたします。



■ 諦（あきら）めなければ・・・



お正月恒例の関東地方（首都圏。したがって山梨県も含む）の大学によって繰り広げられる箱根駅伝。みなさんもすでに知っていることと思いますが、今年は最終区の10区でまさかの大逆転がありました。まさに「筋書きのないドラマ」でした。

全日本大学駅伝で6年ぶりに優勝し勢いづく駒澤大学でしたが、大八木弘明監督は目標を「往路優勝。総合3位」と掲げていました。本音はどうだったのか分かりませんが、13年ぶりの総合優勝を密かに狙っていたのではないかと思われます。初日の往路を終わった時点で首位の創価大学とは2分21秒差。復路の第一走者（6区）が区間賞を取った際には、「7区、8区で首位との差を詰めて、9区で追いつくか、射程圏内に！」という思いもあったことでしょう。

往路優勝した創価大学の監督も「まさか往路優勝するとは思ってもみなかった」と言うように、創価大学の活躍は誰もが考えていなかった展開だと思われれますが、この力は本物だったようで、復路も首位・創価大学と2位・駒澤大学の差は、区間によって縮まったり広がったりの繰り返しで、最終的に9区から10区に襷（たすき）をつないだ時点では3分19秒の差がありました。さすがの大八木監督も「優勝は無理」と思ったようですが、10区の石川拓慎選手（3年）は、「（駒澤の3年生は）谷間の学年と言われたことと、前年も同じ10区を走って最後に早稲田大学の選手に抜かれたという2つの悔しい思いについて見返したい」という思いで、区間賞狙いで必死に追い上げました。後半、創価大学の選手が脱水症状を起こし、足取りが重くなったとはいえ、最後まで諦めずに走ったことが駒澤大学の逆転につながったのではないかと思います。

創価大学の最終区を走った小野寺勇樹選手（3年）も、「この結果をしっかりと受けとめ、来年強くなって戻ってきます」という前向きなコメントを残していました。チームメイトもテレビ越しに走り切った小野寺選手のことをしっかりと称（たた）えており、チームワークの良さを感じました。テレビ中継で「2位で悔しいと思えるチームになった！」とアナウンサーが話していました。この悔しさを胸に来年さらに強くなって戻ってくることでしょ。

優勝候補の青山学院大学は往路の5区を走った竹石尚人選手（4年）が途中、足を癒（けい）れんし、何度か止まってしまうシーンがありましたが、最後まで懸命の走りをつないだことで、それが復路優勝につながりました。竹石選手の足は限界を超えていたものと思われれますが、まさに執念の走りでした。1年留年までして臨んだ本人は悔しかったでしょうが・・・。

1週間ほど前に行われた全日本卓球選手権大会の女子シングルスで石川佳純選手が5年ぶり5回目の優勝を遂げました。昨年の夏、NHKの『プロフェッショナル 仕事の流儀』という番組で、2021年に延期が決定している東京オリンピックの女子シングルスの代表枠をかけての争いで、後輩の平野美宇選手との壮絶な争いを追う1000日間の様子をドキュメントで放映していました。厳しい状況の中でも、諦めることなく海外ツアーに挑戦し続け、代表枠を獲得した石川選手の姿が印象的でした。石川選手は番組の中で「（小学生の頃は）全日本チャンピオンになったら、人生バラ色と思っていたけど、現実とは異なり厳しいものだった」と話していましたが、これは全日本チャンピオンになった者にしか分からない心境でしょう。若手の台頭が著しく競争がし烈な卓球女子の中で、厳しさを乗り越え、感極まり、最後に充実した表情を見せた石川選手に好感を持った人は多いことと思います。

13年ぶりに箱根駅伝を制した駒澤大学の監督も勝負の厳しさを痛いほど味わいながら、たくましく成長した学生たちのもと、美酒に浸ったというところでしょうか。優勝後、大八木監督が発した「諦めなければ何が起こるか分からない」という言葉は受験生にも通じるころがあるでしょう。これから大学の一般入試を受験する3年生のみなさん、自分のこれまでの努力を信じて、最後まで諦めることなくがんばってください！！

文責：清水聖（進路指導主事）